

FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd,9-Rd,10 OTGmotorsports REPORT

9月7日 | 天候:晴 | 気温:27.2度 | コース:オートポリス | 路面温度:30度(ドライ)

9月8日 | 天候:晴 | 気温:24.8度 | コース:オートポリス | 路面温度:25.7度(ドライ)

2015年にSUPER GTのサポートイベントとしてスタートしたFIA-F4選手権。今シーズンも全戦がSUPER GTとの併催となっていて、年間7大会14戦のスケジュールが組まれている。4月に岡山国際サーキットで開幕した2019年のFIA-F4選手権は、5月に富士スピードウェイと鈴鹿サーキットで2大会が実施され、約2ヶ月のインターバルを経て8月に富士スピードウェイで第4大会の第7戦、8戦が開催された。そしてシーズンも終盤となる第5大会は大分県のオートポリスが舞台で、9月7日(土)に予選と第9戦、8日(日)に第10戦が開催された。

若手ドライバーの育成や才能を発掘することを目的としてスタートした同シリーズは、これまで多くのドライバーを上位カテゴリーにステップアップさせてきた。SUPER GTのGT500クラスで活躍しているドライバーもFIA-F4選手権の卒業生が見受けられるようになり、このカテゴリーでの活躍がプロドライバーへの道程となるのだ。

大阪トヨタペットグループは、初年度から同シリーズの目的に賛同しサポートを行ってきた。2018年からはモータースポーツ部門の「OTG motorsports」がチームを結成してエントリー。エースナンバーを背負って2019年シーズンを戦っているのが#60 菅波冬悟選手になる。菅波選手は今回のオートポリス戦からSUPER GTのGT300クラスへの参戦が決まり、FIA-F4選手権とダブルエントリー。若手ドライバーの育成という同シリーズの目的を果たし、プロドライバーへの一歩を踏み出すこととなった。



<予選>

第9戦と第10戦のスターティンググリッドを決める予選は、9月7日(土)の8時5分から30分間に亘って実施された。公式練習でも赤旗が出ることが多かったため、菅波選手はコースオープンとともにすぐにタイムアタックを開始する。2週のウォームアップを挟んで3周目には自己ベストタイムの1分53秒377をマーク。しかし、前日の公式練習でマークしたタイムには及ばず、コースコンディションの変化に合わせきれなかったという。やはり予選開始から10分が経過するとクラッシュが発生して赤旗が提示されて中断となる。6分を中断を経て予選は再開し、計測7周目にセカンドベストとなる1分53秒418をマークする。結果として第9戦、第10戦ともに7位となった。

<第9戦>

第9戦と第10戦のスターティンググリッドを決める予選の終了から約5時間のインターバルを経て、第9戦の決勝レースが13周で競われた。7日(土)は予選時の午前中から日差しが照り付け、決勝スタートの13時には気温が27℃を超えるほどの好天となった。

7番手グリッドからスタートした菅波選手は、ポジションをキープしたまま1周目のコントロールラインを通過する。3周目には自己ベストタイムの1分54秒530をマークするが、オートポリスはパッシングポイントが少ないコースなので先行車をパスすることができない。常にプレッシャーを掛けながら相手のミスを誘おうとするが、トップ集団を形成する選手達はミスを犯すことが少ない。レースが折り返しを迎えた7周目もスタートの順位をキープしたままで、ポジションアップができない。後半も先行車に対してテールトゥノーズで走行するが抜くことができず、13周目に7位でチェッカーを受けた。結果としてトップ10の順位は、1周目のコントロールライン通過から変化することがなかった。

<第10戦>

予選と第9戦から一夜が明けた8日(日)の9時10分に第10戦決勝レースのフォーメーションラップがスタートした。この日も前日同様の好天で、スタート時の気温は25℃に迫った。

7番手グリッドからスタートした菅波選手は1コーナーまでに数台にパスされて、その後の前半セクションでも数台に抜かれて1周目のコントロールラインを11番手で通過する。2周目に入ると1台をパスし、3周目には自己ベストタイムの1分54秒581をマーク。抜きづらいコースのため第9戦と同様に膠着状態が続くが、6周目に9番手にポジションをアップさせる。ここから追い上げを図ろうとしたが1コーナーでクラッシュが発生したためにセーフティカーが導入される。レースは10周目にリスタートし、上手く加速した菅波選手はホームストレートで8番手に浮上。ファイナルラップはさらに1台をパスして7位でチェッカーを受けた。昨年のオートポリスラウンドでは2レースともに優勝を果たした験の良いサーキットだったが、今回は2戦ともに7位と精彩を欠く結果となった。

<菅波冬悟選手>

公式練習ではマシンのパフォーマンスを引き出せていたのですが、もっとも重要な予選で失敗してしまいました。マシンの出来は良かったのですが、ドライビングで合わせ切れなかったと感じています。予選が両レースともに7番手となってしまったので、決勝レースでは少しでも上位を目指しましたが、抜けずにポジションキープとなりました。スタート直後のポジション取りも想定通りにならなかったため、ここも反省点です。残り4戦となってしまったので、全戦で勝てるように準備を進めていきたいです。



<予選>

第9戦と第10戦のスターティンググリッドを決める予選は、9月7日（土）の8時5分から30分間に亘って実施された。大竹選手も菅波選手と同様にコースオープンとともにタイムアタックを開始する。計測3周目には1分54秒台を記録し、翌周には1分53秒753をマークする。さらにタイムアップを図ろうとした瞬間に赤旗が提示されて予選は中断となる。6分の中断を経て予選が再開すると、大竹選手は再びタイムアタックに入る。計測7周目に1分53秒台、8周目には自己ベストタイムの1分53秒716をマークするが、すでにタイヤのピークグリップを引き出せる状況ではなく、第9戦、第10戦ともに14位となった。

<第9戦>

第9戦と第10戦のスターティンググリッドを決める予選の終了から約5時間のインターバルを経て、第9戦の決勝レースが13周で競われた。7日（土）は予選時の午前中から日差しが照り付け、決勝スタートの13時には気温が27℃を超えるほどの好天となった。

14番手からスタートした大竹選手はグリッドからの加速は悪くなかったというが、1コーナーを過ぎてからのポジション取りが上手くいかず1周目に1つポジションを下げてしまう。15番手から追い上げるようになった大竹選手は、先行するマシンとテールトゥノーズでプレッシャーを掛ける。しかし、菅波選手と同様に抜きづらいコースの特性のためポジションを上げることができない。レース終盤の10周目には自己ベストタイムの1分55秒248をマークするが、トップ10内の集団には追いつくことができず13周目に15位でチェッカーを受けた。

<第10戦>

予選と第9戦から一夜が明けた8日（日）の9時10分に第10戦決勝レースのフォーメーションラップがスタートした。この日も前日同様の好天で、スタート時の気温は25℃に迫った。

14番手からスタートした大竹選手はポジションをキープしたまま1周目のコントロールラインを通過が、2周目には1つポジションを上げて13番手となる。トップ10内を狙う熾烈な争いの中でも大竹選手は冷静にポジションを守りつつ、先行車にプレッシャーを掛ける。6周目には12番手となり、10番手を走るマシンとも1秒以内の差でレースを折り返した。さらに順位を上げようと試みたが、7周目にセーフティカーが導入されてしまう。レースは10周目にリスタートするが、大竹選手はリスタートの加速が鈍り11周目には13番手にポジションダウン。翌周にも1つ順位を落とすが、ファイナルラップで先行していた2台が絡むアクシデントがあり、13周目に12位でフィニッシュした。

<大竹将光選手>

オートポリスは7月にテストの機会をもらって初めて走行しました。ウエットコンディションでは上位の選手とも差のないタイムだったので、天候次第ではチャンスがあると思って挑みました。予選は赤旗がでることも想定して早めにタイムを出しにいきましたが、ダスティな路面に合わせるできませんでした。ベストタイムは終盤に記録したもので、タイヤグリップのピーク時に合わせていれば、もう少し上のグリッドを狙えたはずでした。第9戦は1周目の混戦で順位を落としてしまい、その後はペースを上げられずに15位でした。第10戦に向けては低速コーナーの曲がりにくさを改善するセットアップを施してもらいました。そのお陰もあって序盤は上位陣から離されることなくレースができました。ただ抜きにくいコースなのでスタートやリスタートで順位を上げないと勝負できません。レースペースが上がったことは収穫ですが、もっと高い次元で戦えるように次戦までに準備を行ないます。



菅波選手は公式練習でトップを狙えるパフォーマンスを示していたのですが、予選前までにセットアップを変更したことが裏目に出てしまい、両レースともに7番手スタートとなりました。やはり抜きにくいオートポリスなので、スピードがあっても7番手から上位に入ることができませんでした。今回は阿蘇山の火山灰の影響で、朝一は特に滑りやすいコースコンディションでした。セットアップではなく、そのコンディションにドライビングで合わせる必要があったと思います。

大竹選手は、ドライビングを改善して欲しいこともあり、これまではセットアップを積極的にいじることをして来ませんでした。レース2に向けて自分の求めるセットアップに合わせたところ、少し上位と戦えるようになったと感じています。しかし、レース序盤のスピードや他車と競り合っているときの勝負強さなど足りないところはあります。これまでもウィークポイントは指摘していて、改善する努力はしていますが、まだ十分ではありません。残り4戦となってしまったので、より良い成績を収められるようにチームとして努力していきます。

